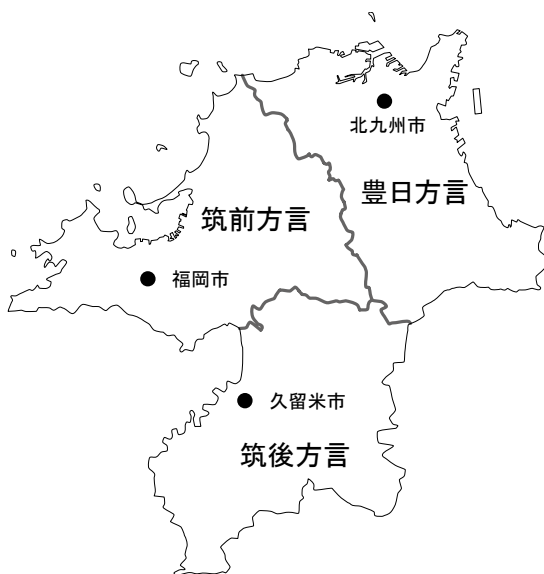


福岡県福岡市方言



福岡県方言区画図

【福岡県の方言区画】福岡県には肥筑方言と豊日方言という二大方言圏の境界線が南北に走っている。肥筑方言のうち、福岡県内において筑前方言と筑後方言という細かな区分もできる。このうち本章で記述する福岡市方言は筑前方言に属する。アクセントは、おおよそ豊日方言が東京式、筑前方言が準東京式、筑後方言が無アクセントとなっている。

【福岡市方言について】関西以西で最大の人口(2014年現在で約150万人)をもつ福岡市は、人口の流入が多い。東京、神奈川、大阪といった大都市からの流入者を受け入れる一方、九州一円またその近辺からの流入も多く、激しい方言接触が起こっている。今後福岡市の人口は160万人に達するという予測もあり、方言接触はさらに激しくなることが予想される。このような激しい方言接触の結果、現在では高年層においても伝統的な方言が急速に失われつつある。また、このような世代差に加え、個人差もかわる特徴として、形容名詞述語(学校文法の形容動詞)がある。共通語の形容名詞のほとんどは、福岡市方言では「ゲンキカ」「ジョーズカ」「キノドクカ」のような断定・連体非過去形をとる。よって「アツ

カ」「サムカ」「カワイカ」のような形容詞と同じ「～カ」という接辞をもつことになるが、他の形容詞的な活用形はもたなかったり、あるいは名詞的な活用をとることがある。

【表記について】伝統的な福岡市方言は、[s]に[a]や[e]が続くとき、口蓋化した[e]が現れることがよくあり、現在でも60代後半以上の話者であればこの音を聞くことができる。たとえば活用表の「カカセル」が「カカセル」となったりすることがある。ただし、活用についてはこの音声的なバリエーションが問題になることはないため、一貫して「サ」セ」と表記することにする。ただし尊敬形の「～ツシャー」や「～ンシャー」の「シャ」については「サ」で現れることはないため、「シャ」で表記している。

【調査概要】本稿の記述は、福岡市で生育した筆者(1983年生まれ)の内省にもとづいて行っている。用例は、筆者の内省や、筆者の収集によるテキストを参考にした作例である。なお、上記のようにこの方言では世代差が激しいため、できるだけ伝統的な福岡市方言を記述しつつも、適宜変化についても言及していく。このような事情により、次ページにある表にはさまざまな世代の用いる形が混在しており、これが一個人の方言使用をそのまま反映したものであることをここで断っておく(詳しくは記述のなかで触れていく)。

福岡県福岡市方言の活用表

《動詞》

活用形 \ 類別		a類 書く	b類 見る	来る	する
終 止 類	断定非過去	カク	ミル	クル	スル
	断定過去	カイタ	ミタ	キタ	シタ
	命令	カケ カキ(ー)	ミレ ミリ(ー)	コイ キ(ー)	セレ セロ シ(ー)
	禁止	カクナ	ミルナ	クルナ	スルナ
	意志	カコ(ー)	ミロ(ー)	コヨ(ー) コ(ー)	シヨ(ー) シヨー
	推量	カコー カクヤロー	ミロー ミルヤロー	コヨー コー クルヤロー	シヨー シヨー スルヤロー
	否定意志・ 否定推量	カクメー カカンメー	ミルメー ミランメー	クルメー コンメー	スルメー センメー
接 続 類	連体非過去	カク	ミル	クル	スル
	連体過去	カイタ	ミタ	キタ	シタ
	中止	カITE	ミTE	キTE	シTE
	仮定	カケバ カイタラ	ミレバ ミタラ	クレバ コレバ キタラ	スレバ シタラ
派 生 類	否定	カカン	ミラン	コン	セン
	丁寧	カキマス	ミマス	キマス	シマス
	使役	カカス カカセル	ミサス ミサセル ミラセル	コサス コサセル	サス サセル
	受身	カカルー	ミラルー	コラルー	サルー
	可能	カキキー カカルー	ミキー ミラルー	キキー コラルー	シキー サルー
	尊敬	カカッシャー カキンシャー カキナル	ミラッシャー ミンシャー ミナル	コラッシャー キンシャー キナル	サッシャー シンシャー シナル
	継続	カキヨー カイトー	ミヨー ミトー	キヨー キトー	シヨー シトー
	希望	カキタカ カコーゴター	ミタカ ミローゴター	キタカ コヨーゴター	シタカ シヨーゴター
	のだ	カクト(ヤ)	ミルト(ヤ)	クルト(ヤ)	スルト(ヤ)

a類動詞の基幹音便形

語幹末子音	語例	活用形例(過去形)	作り方
k	書く kak・u	カイ-タ	kをiにする。「行く」ik・uはkをQ(促音)にし「イツ-タ」。
g	脱ぐ nug・u	ヌイ-ダ	gをiにする。-タが-ダになる。
s	出す das・u	ダシ-タ	音便形をとらず、基幹イ段形を用いる。
t/c	立つ tac・u	タツ-タ	t/cをQ(促音)にする。
n	死ぬ sin・u	シン-ダ	nをN(撥音)にする。-タが-ダになる。
b	飛ぶ tob・u	トン-ダ	bをN(撥音)にする。-タが-ダになる。
m	飲む nom・u	ノン-ダ	mをN(撥音)にする。-タが-ダになる。
r	切る kir・u	キッ-タ	tをQ(促音)にする。
w/	買う ka(w)・u 誘う saso(w)・u	コー-タ サソ-タ	wは(子音なし)に。wの前の母音がaの場合はoに変える。基幹が1拍の場合は長音化する。

《形容詞・形容名詞述語・名詞述語》

		赤い	下手(だ)		静か(だ)		学生[ガクセー](だ)
			形容詞型	名詞述語型	形容詞型	名詞述語型	
終止類	断定	アカカ	ヘタカ	ヘタ(ヤ)	シズカカ	シズカ(ヤ)	学生(ヤ)
	非過去						
	断定	アカカッタ	ヘタカッタ	ヘタヤッタ	△シズカカッタ	シズカヤッタ	学生ヤッタ
接続類	過去						
	推量	アカカロー	ヘタカロー	ヘタヤロー	△シズカカロー	シズカヤロー	学生ヤロー
	連体	アカカ	ヘタカ	ヘタナ	シズカカ	シズカナ	《学生ノ》
派生類	非過去						
	連体	アカカッタ	ヘタカッタ	ヘタヤッタ	△シズカカッタ	シズカヤッタ	学生ヤッタ
	中止	アコーシテ	ヘタクテ	ヘタデ	△シズカクテ	シズカデ	学生デ
	假定	アカカレバ	△ヘタカレバ	ヘタナラ	△シズカカレバ	シズカナラ	学生ナラ
		アカケレバ	ヘタケレバ	ヘタヤッタラ	△シズカケレバ	シズカヤッタラ	学生ヤッタラ
アカカッタラ		ヘタカッタラ		△シズカカッタラ			
当為条件	アカカラナ	△ヘタカラナ	《なし》	△シズカカラナ	《なし》	《なし》	
派生類	否定	アコーナカ	ヘタクナカ	ヘタジャナカ ヘタヤナカ	△シズカクナカ	シズカジャナカ シズカヤナカ	学生ジャナカ 学生ヤナカ
	なる	アコーナル	ヘタクナル	ヘタニナル	△シズカクナル	シズカニナル	学生ニナル
	丁寧	アカカデス	ヘタカデス	ヘタデス	△シズカカデス	シズカデス	学生デス
	のだ	アカカト(ヤ)	ヘタカト(ヤ)	ヘタト(ヤ)	シズカカト(ヤ)	シズカト(ヤ)	学生ト(ヤ)

1. 動詞の活用の特徴

(1) 活用型と語類の対応

a 類動詞(五段動詞)は 型、b 類動詞(一段動詞)は 型と 型 r、「来る」は 型 k と 型 r、「する」は 型 s と 型 r の活用形をもつ。

a 類動詞「書く」は 型 k で一貫した活用をとる。

b 類動詞「見る」のうち、命令形「ミリー」は特に若い世代によって使用され、l 型 r の活用形が豊

富である。しかしながら命令形「ミレ」や意志・推量形「ミロー」はだんだん使わなくなってきている。それぞれ「ミロ」「ミヨー」「ミルヤロー」という共通語形と同形のもが使用されるようになりつつあることから、型 r 化はやや衰退しつつあるともいえるが、否定形「ミラン」は根強く残っている。

「来る」の活用には、型 k の命令形にやはり勤めとして用いられる「キー」がある。また、型 k

の意志・推量形の「コヨー」と「コー」が、型「r」の条件形に「クレバ」と「コレバ」があるといった特徴もある。

「する」は、型「r」の命令形に「セレ」と「セロ」があるが、これらは衰退しつつあり、共通語と同形の「シロ」が用いられるようになってきている。

なお、動詞の類を問わず受身形や可能形を作る接辞に「～ルー」という古典語の二段動詞的な活用のなごりがみられるが、現在では二段動詞とよばれるような動詞は観察されない。

(2)各活用形の特徴

〈断定非過去形・連体非過去形〉

共通語と同形で「カク」「ミル」「クル」「スル」である。断定の場合と連体の場合の形のちがいもない。

・今からおまえんち来るけん。(今からおまえの家に行くから。)

〈断定過去形・連体過去形〉

共通語と同形で「カイタ」「ミタ」「キタ」「シタ」である。断定の場合と連体の場合の形のちがいもない。ただしa類動詞w語幹の「買う」は「コータ」のように音便化する。

・山笠の棧敷券ばこーた。(山笠の棧敷券を買った。)

古くはb語幹の「飛ぶ」は「トーダ」、m語幹の「読む」は「ヨーダ」のように音便化していたようであるが、現在では高年層においても聞かれなくなっており、代わりに共通語と同形の「トンダ」「ヨンダ」が用いられる。w語幹の音便化もあまり聞かれなくなっており、やはり共通語と同形の「カッタ」が使われるようになってきている。

〈命令形〉

a類動詞と「来る」は共通語と同形をとるが、b類動詞は「ミレ」のように型をとる。また、「する」も工段基幹の「セレ」という型に加え、同じ意味の「セロ」という形も存在する。ただし前述のように、いずれも衰退しつつあり、「ミロ」「シロ」という共通語と同形のものの使用がみられるようになってきている。

・はよ掃除ばせれ。(早く掃除をしろ。)

以上の形式は命令という機能をもつが、一方勧めに用いられる命令形として、「カキー」「ミリー」「キー」

「シー」のような表現の使用が若年層を中心に盛んになっている。母音が長音化しない「カキ」「ミリ」「キ」「シ」も用いられる。

・この傘でよかつたら持って行きー。(この傘でよかつたら持って行きなよ。)

〈意志形・推量形〉

古くからの日本語の特徴を残し、意志形と推量形は同じ形が用いられる。さらに勧誘のほか、確認要求にも用いられる。「カコー」「ミロー」「コヨー/コー」「ショー/シヨー」などとなるが、推量形では「カクヤロー」「ミルヤロー」「クルヤロー」「スルヤロー」のように、「ヤロー」という付属語を用いて分析的に表すようにもなっている。このような変化は、意志的な意味をもつ動詞に特に顕著である。また、前述のようにb類動詞の型「r」化は衰退しつつあり、「ミロー」のほかに「ミヨー」の使用が多くなってきているようである。

・今度釣りに行こうと思うてから、新しか竿ばこーたとたい。(今度釣りに行こうと思って、新しい竿を買ったんだ。)

〈否定意志形・否定推量形〉

否定の場合は「カカンメー」「ミランメー」「コンメー」「センメー」のように、「～ンメー」で否定意志と否定推量を表す(肯定の場合と同様、確認要求も表せる)。かつては「カクメー」「ミルメー」「クルメー」「スルメー」のようになっており、「～メー」が否定と意志/推量という両方の意味を担っていたが、現在ではこのような形はほとんど聞かれなくなっている。つまり、「ン」が否定を、「メー」が(否定専用の)意志/推量を表し、分析的になっている。

・恥ずかしかけんもうラブレターやら{書かんめー / 書くめー}(恥ずかしいからもうラブレターなんて書かないでおこう。)

ただし特に若い世代では「～ンメー」もやや衰退しつつあり、意志では「カカンドコー」「ミランドコー」「コンドコー」「センドコー」のように「～ンドコー」が、推量では「カカンヤロー」「ミランヤロー」「コンヤロー」「センヤロー」のように「～ンヤロー」が用いられるようになってきている。

〈中止形〉

共通語と同形で「カイテ」「ミテ」「キテ」「シテ」が用いられる。ただし前述の断定過去形・連体過去

形と同様、w 語幹の「買う」は「コーテ」、m 語幹の「読む」は「ヨーデ」、b 語幹の「飛ぶ」は「トーデ」のように音便化していた。やはりこれらの音便の衰退も著しく、特に「ヨーデ」「トーデ」などは全くといってよいほど聞かれなくなっている。代わりに共通語と同形の「カッテ」「ヨンデ」「トンデ」などとなっている。

- ・高かところから落ちて足ばけがしたっちゃん。
(高いところから落ちて足をけがしたんだよね。)

〈仮定形〉

「カケバ」「ミレバ」「クレバ/コレバ」「スレバ」のような「～バ」と、「カイタラ」「ミタラ」「キタラ」「シタラ」のような「～タラ」が存在する。前者は音が融合した「カキャ(ー)」「ミリヤ(ー)」「クリヤ(ー)」「スリヤ(ー)」のようなバリエーションも存在する。

- ・あんたが{行けば/行きゃ/行ったら}よかるうもん。(あなたが行けばいいでしょう。)

〈否定形〉

「～ン」を用いた「カカン」「ミラン」「コン」「セン」である。b 類動詞の 型 r 化の現象は、この否定形において最も強固に現れ、 型の「ミン」といった形は若年層でもほとんど聞かれることはない。ただしこの傾向は「見る」「寝る」「着る」などの 2 拍動詞に限られ、「起きる」のような 3 拍動詞になると 型 r の「オキラン」と 型の「オキン」の両方が、4 拍動詞の「通じる」でも 型 r の「ツウジラン」と 型の「ツウジン」の両方が存在することがある。しかしながら、拍数の多い動詞のなかでも、「忘れる」のような動詞では 型の「ワスレン」がもっぱら使われるというようになる。語彙的に 型 r か 型が現れるようで、詳しいことははっきりわかっていない。なお、当為表現の「～ナイカン」では「ワスレナイカン」のように、 型 r が出現しやすくなる。

- ・その映画はつまらんごた一けんおれは見らん。
(その映画はつまらなさそうだからおれは見ない。)

過去テンスではそれぞれ「カカンヤッタ」「ミランヤッタ」「コンヤッタ」「センヤッタ」となるが、特に若い世代では「カカンカッタ」「ミランカッタ」「コンカッタ」「センカッタ」のように、西日本共通

語的な「～ンカッタ」も併用されている。

- ・1 時間も待ったといいっちょんこんやった。(1 時間も待ったのに全然来なかった。)

若年層を中心に「～ンクナイ」や「～ンクテ」といった活用形も聞かれるが、後者はあまり用いられず、伝統的な「～ンデ」が用いられることが多い。

〈丁寧形〉

共通語と同じ「マス」が用いられる。

- ・ここに置いときますけん。(ここに置いておきますから。)

意志・推量形「カキマッショー」「ミマッショー」「キマッショー」「シマッショー」や、否定形「カキマッセン」「ミマッセン」「キマッセン」「シマッセン」のように、共通語とくらべると促音が入っていることがある。かつての「まらする」や「まっする」のなごりであると思われる。共通語の「すみません」にあたる定型的なあいさつも「スンマッセン」が聞かれることがある。

〈使役形〉

「カカス」「ミサス」「コサス」「サス」と、共通語と同形の「カカセル」「ミサセル」「コサセル」「サセル」も用いられる。「カカスル」「ミサスル」「コサスル」「サスル」のような古典語の二段活用的な「～スル」は、現在ではほとんど聞かれなくなっているといつてよい。また、b 類動詞については 型 r 化した「ミラス」や「ミラセル」もあるが、使用頻度はやや低い。

- ・そげなこと言いよつたらまた{来さす/来させる}ぜ。(そんなこと言ったらまた来させるよ。)

〈受身形〉

二段活用的な「～ルー/～ルル」を用いた「カカルー/カカルル」「ミラルー/ミラルル」「コラルー/コラルル」「サルー/サルル」である。使用頻度は「～ルー」のほうが高いのではないと思われる。ただし若年層ではこれらの形式は全く使用されなくなっており、「カカレル」「ミラレル」「コラレル」「サレル」のように共通語と同形になっている。

- ・また悪口ば言わるー/言わるる/言わるれる}ばい。(また悪口を言われるよ。)

〈可能形〉

能力可能と状況可能の区別があり、前者を「～キ

ーノ～キル」で、後者を「～ルーノ～ルル」で表す。能力可能のほうは、若年層では「～キル」がやや多く用いられているようである。「～ルーノ～ルル」は前述の受身形と同じ活用をとり、「カカルーノカカルル」「ミラルーノミラルル」「コラルーノコラルル」「サルーノサルル」となる。「～ルル」の使用頻度はやや低い。世代が下がるにつれて、「カカレル」「ミラルル」「コラルル」「サレル」といったb類動詞型の接辞「レル」が用いられる。若年層になると状況可能を表す「～ルーノ～ルル」は全く使用されなくなっている。その代わりに、a類動詞の工段形にルを付したいわゆる可能動詞「カケル」などが用いられるようになっていく。また、b類動詞や「来る」でも「ミレル」「コレル」といった型「工段形に「ル」が付く形が盛んに使用されるようになっていく(「する」は共通語と同様、補充的に「デキル」が使用される)。「～キル」は若年層でもまだ能力可能として使用されているが、型工段に「ル」を付加したものは能力可能や状況可能といった区別をもたない。よって、若年層では状況可能の専用形式は失われていることになる。

- ・おまえ車運転しきるや？(おまえ車運転できるか？)
- ・プールに水が入つとーけん、今日は泳がれるぜ。(プールに水が入ってるから、今日は泳げるよ。)

そのほか可能にかかわる形式として、時間的な余裕があるかどうかといった条件に言及する「～オーセル」もある。「カキオーセル」「ミオーセル」「キオーセル」「シオーセル」などとなるが、現在ではほとんど聞かれなくなっている。

- ・もう5時ばってん買いおーせるかいな？(もう5時だけど買えるかな？)

〈尊敬形〉

基幹がア段の「カカッシャーノカカッシャル」「ミラッシャーノミラッシャル」「コラッシャーノコラッシャル」「サッシャーノサッシャル」と、型イ段・型基幹の「カキンシャーノカキンシャル」「ミンシャーノミンシャル」「キンシャーノキンシャル」「シンシャーノシンシャル」がある。「～ッシャー」と「～ンシャー」の待遇度のちがいはよくわかっていないが、近年では後者のほうが盛んに用いられるよう

ある。しかしながら両者とも若年層にかけだんだんと衰退している。「カキナル」「ミナル」「キナル」「シナル」といった「～ナル」も存在するが、現在ではあまり聞かれない。

- ・あの人ば字ばきれいに{書かっしゃーノ書かっしゃるノ書きんしゃー}けん、あの人に頼もう。(あの人ば字をきれいに書きになるから、あの人に頼もう。)

〈継続形〉

進行と結果を形式で区別し、前者は「カキヨーノカキヨル」「ミヨーノミヨル」「キヨーノキヨル」「シヨーノシヨル」のように「～ヨーノ～ヨル」を、後者は「カイトーノカイトル」「ミトーノミトル」「キトーノキトル」「シトーノシトル」のように「～トーノ～トル」を用いる。「～ヨー」「～トー」も若年層でも盛んに用いられているが、「～トー」が進行も表すようになっていたり、特に若年層では否定形の「～ヨラン」「～トラン」が用いられず、どちらも共通語と同形の「～テナイ」に取って代わられつつある。

- ・なんしよーと？(何してるの？)
- ・もう寝とーとや？(もう寝てるのか？)

なお、他の活用形と待遇上不均衡なため前述の活用表ではあげていないが、「～ヨー」「～トー」のほかに、尊敬の意味もそなえた「～ゴザーノ～ゴザル」という形式も存在する。「カキゴザーノカキゴザル」「ミゴザーノミゴザル」「キゴザーノキゴザル」「シゴザーノシゴザル」が進行と尊敬を、「カイトゴザーノカイトゴザル」「ミテゴザーノミテゴザル」「キテゴザーノキテゴザル」「シテゴザーノシテゴザル」が結果と尊敬を表す。また、「～テアルノ～チャーノ～チャル」も尊敬の意味を含んでおり、「カイトアルノカイトチャーノカイトチャル」「ミテアルノミテチャーノミテチャル」「キテアルノキチャーノキチャーノシテアルノシチャーノシチャル」のように用いられるが、これは進行や結果の区別をもたず、どちらの意味にも用いられる。しかしながら、これら尊敬の意味を含んだ形式は、あまり聞かれなくなっている。

- ・先生がビールば{飲みござーノ飲んでござーノ飲んじゃー}。(先生がビールを飲んでいらっしゃる。)

〈希望形〉

後述する形容詞の非過去形と同様、共通語の「～

タイ」に対応する形でカ語尾の「～タカ」がある。「カキタカ」「ミタカ」「キタカ」「シタカ」のようになるが、現在ではカ語尾の衰退により「カキタイ」「ミタイ」「キタイ」「シタイ」のようにイ語尾が用いられるようになっている。

・はよ家さい帰^レりたか。(早く家に帰りたい。)

また、動詞の意志・推量形に「～ゴターノ～ゴタル」のついた「カコーゴターノカコーゴタル」「ミローゴターノミローゴタル」「コヨーゴターノコヨーゴタル」「ショーゴターノショーゴタル」という言い方も存在する。「～タカ」とのちがいはよくわかっていない。しかしながら、若年層では全く用いられなくなってしまう。

・あいつくらそーごた^一。(あいつ殴ってやりた^いい。)

〈のだ形〉

準体助詞トを用いた「カクト」「ミルト」「クルト」「スルト」のようになる。後ろに終助詞などが何も続かない非過去の言い切りの場合は、コピュラがつかない(「×カクトヤ。」「ネ」などの終助詞がつくと、「カクトヤネ/カクツチャネ」「ミルトヤネ/ミルツチャネ」「クルトヤネ/クルツチャネ」「スルトヤネ/スルツチャネ」のようにコピュラが出現する。

・明日学校行くと? (明日学校行くの?)

2. 形容詞・形容名詞述語・名詞述語の活用の特徴

【形容詞】

伝統的にはいわゆるカ語尾を用い、仮定形や当為条件形も動詞的な接辞をとる。また、中止形・否定形・なる形では、語幹末母音が a, i の場合に交替語幹を用いた形がある。語幹末が u, o の場合は交替がない。語幹末が e の語は存在しない。

語幹末母音	交替後	例
a	o	アカカ アコーナル ナカ ノーナル
i	yu	オーキカ オーキューナル ウレシカ ウレシューナル
u	u	ワルカ ワルーナル
o	o	フトカ フトーナル

ただし活用も交替語幹も、共通語的なものが増えてきている。

〈断定非過去形・連体非過去形〉

「アカカ」のように、いわゆるカ語尾をとる。断定と連体の場合の形のちがいはない。かつては福岡市方言を含む肥筑方言を特徴づけるものの一つであったが、今では高年層においてもほとんど失われつつある。

・人の多^かとたい。(人が多いんだ。)

なお表にはないが、非過去形に「アカサ(ー)」もある。これは、何らかの驚きの気持ちのような感情をとともなう表現である。現在では高年層でもほとんど聞かれなくなっている。

・帰ってくるとの早^さ。(帰ってくるのが早いなあ。)

〈断定過去形・連体過去形〉

共通語と同形の「アカカッタ」が用いられる。断定と連体の場合の形のちがいはない。

・おまえさっきまで顔が赤^かったつえ。(おまえさっきまで顔が赤かったんだぞ。)

〈推量形〉

動詞型の活用をし、「アカカロー」となる。確認要求でも用いられる。特に若年層では「アカイヤロー」のように、動詞の場合と同様に分析的な言い方も併用されている。

・あっちは寒^かろうや。(あっちは寒いだろう。)

〈中止形〉

交替語幹の長音形「アコー」に、動詞「する」に由来する中止形「シテ」がついた「アコーシテ」が用いられる。ただし近年では衰退し、若年層では共通語と同形の「アカクテ」がもっぱら用いられる。

・まだあ^つして食われん^つたい。(まだ熱くて食べられないんだ。)

〈仮定形〉

動詞型の活用の「アカカレバ」と、形容詞型の活用の「アカカッタラ」がある。ただし現在では「アカカレバ」は衰退し、「アカケレバ/アカケリヤ」が用いられるようになっている。

・具合が{悪^かれば/悪^かったら/悪^ければ/悪^けりゃ}また言うてください。(具合が悪^かったらまた言うてください。)

〈当為条件形〉

仮定形同様、動詞型の活用があり、「～カラナ」というようになる。ただし、衰退し共通語形と同形の「アカクナケレバ/アカクナケリヤ」が用いられるようになっていく。

- ・風呂は熱からないかん。(風呂は熱くなければいけない。)

〈否定形〉

交替語幹の長音形に「～ナカ」のついた「アコーナカ」となる。ただし現在では共通語と同形の「アカクナイ」が用いられるようになっていく。

- ・そげんさむーなかけん歩いて帰るや？(そんなに寒くないから歩いて帰るか？)

〈なる形〉

否定と同じく交替語幹長音形を用い、「アコーナル」となる。やはり否定形と同様、現在では共通語と同形の「アカクナル」が用いられるようになっていく。

- ・なしそげんあこーなるとや？(何でそんなに赤くなるんだ？)

〈丁寧形〉

共通語と同様「デス」が用いられ、「アカカデス」となる。

- ・そげん心配せんだちやよかです。(そんなに心配しなくてもいいです。)

〈のだ形〉

動詞の場合と同様、準体助詞トを用いた「アカカト」となる。やはり後ろに終助詞などが何も続かない場合は、コピュラは現れない(「×アカカトヤ。」)。

- ・あいつが悪かとたい。(あいつが悪いんだ。)

【形容名詞述語】

この品詞に属する語には、形容詞的な活用を多くとる語(「下手(だ)」「楽(だ)」「きれい(だ)」など)と、一部形容詞的な活用をとる語(「静か(だ)」「豪華(だ)」「有名(だ)」など)がある。ここではこれらの語をまとめて、便宜的に形容名詞としているが、両者を代表させる語として、それぞれ「下手(だ)」と「静か(だ)」をあげていく。なお、全く形容詞的な活用をとらない「好き(だ)」という語もあるが、この活用は「静か(だ)」が形容詞活用しない場合に準ずるため、記述は省略する。

〈断定非過去形・連体非過去形〉

「ヘタカ」「シズカカ」のように、どちらも形容詞

「アカカ」のようにカ語尾をとる。ただしやはりカ語尾の衰退により、「ヘタイ」「シズカイ」のようにイ語尾をとる話者が増えている。ただし「シズカカ」や「シズカイ」は容認しない話者は少なくないと思われる。形容詞的な活用とともに、後述する名詞と同様に「ヘタ(ヤ)」「シズカ(ヤ)」という形も存在する。動詞・形容詞ののだ形と同様、非過去の場合はコピュラで文を終止させることができない(「×ヘタヤ。」「×シズカヤ。」)。一部の終助詞をとまなえば、コピュラが現れることがある。

- ・スキーはしたことあるばってん{下手か/下手}。(スキーはしたことあるけど下手だ。)
- ・昼間でもえらい{静かか/静かや}ね。(昼間でもえらく静かだね。)

〈断定過去形・連体過去形〉

「ヘタカッタ」「シズカカッタ」のように、やはり形容詞的な活用をする。ただし、前述の断定・連体非過去形の場合同様、「ヘタカッタ」にくらべると、「シズカカッタ」の容認度はやや低いと思われる。名詞的な「ヘタヤッタ」「シズカヤッタ」も併用される。

- ・子どものときはまだ{下手かった/下手やった}。(子どものときはまだ下手だった。)
- ・図書館は誰もおらんで{静かかった/静かやった}よ。(図書館は誰もいなくて静かだったよ。)

〈推量形〉

「下手(だ)」は「ヘタカロー」という形容詞活用もとれるが、「静か(だ)」は形容詞活用をとることはむずかしく、名詞的に「シズカヤロー」となる。「ヘタヤロー」という形もあわせて用いられる。

- ・能古島はコスモスが{きれいかろー/きれいやろー}やー。(能古島はコスモスがきれいだろう。)
- ・焼き鳥は鶏より豚のほうが人気やろー。(焼き鳥は鶏より豚のほうが人気だろう。)

〈中止形〉

名詞述語的な「ヘタデ」「シズカデ」となるが、若年層では「ヘタクテ」という形容詞的な活用も聞かれることもある。

- ・おもーたより楽で助かった。(思ったより楽で助かった。)

- ・料理は豪華でうまかったばい。(料理は豪華でうまかったよ。)

〈假定形〉

「下手(だ)」は形容詞的に「ヘタケレバ」「ヘタカッタラ」と活用することもあるが、名詞的に「ヘタナラ」「ヘタヤッタラ」となることもある。「静か(だ)」は「シズカナラ」「シズカヤッタラ」となる。

- ・もっと{楽ければ / 楽かったら / 楽なら / 楽やったら}よかったとい。(もっと楽だったらよかったのに。)
- ・もっと{上手なら / 上手やったら}よかったとい。(もっと上手ならよかったのに。)

〈否定形〉

伝統的には「～ジャンカ」「～ヤナカ」を用いた「ヘタジャンカ」「ヘタヤナカ」や「シズカジャンカ」「シズカヤナカ」が用いられるが、前述のとおりカ語尾の衰退により「ヘタジャンイ」「ヘタヤナイ」や「シズカジャンイ」「シズカヤナイ」が主流になっている。ただし若年層を中心に「ヘタクナイ」といった形容詞型活用も聞かれる。

- ・山登りは楽ジャンカ / 楽ヤナカ / 楽クナイ。(山登りは楽じゃない。)
- ・あいつはそげん{有名ジャンカ / 有名ヤナカ}(あいつはそんなに有名じゃない。)

〈なる形〉

共通語と同様、「ヘタニナル」「シズカニナル」である。ただし若年層を中心に「ヘタクナル」といった形容詞型活用も聞かれる。

- ・水であるーたら{きれいくなる / きれいになる}よ。(水で洗ったらきれいになるよ。)
- ・テレビに出れば有名になるぜ。(テレビに出れば有名になるよ。)

〈丁寧形〉

「～デス」を用いた「ヘタカデス」「ヘタイデス」「シズカデス」となる。「下手(だ)」は共通語と同様「ヘタデス」もある。

- ・{気の毒かです / 気の毒です}もんねー。(気の毒ですもんねー。)
- ・ここは車も通らんけん静かですよ。(ここは車も通らないから静かですよ。)

〈のだ形〉

後述する名詞同様、形容名詞はのだ形をもたない。

形容詞的な活用をする「ヘタカト」や「ヘタイト」はあり、若年層を中心に「シズカ」に直接準体助詞トをつけた「シズカト」もよく聞かれる。

- ・またそいつの歌が{下手かと / 下手と}たい。(またそいつの歌が下手なんだ。)
- ・その試験って簡単と?(その試験って簡単な?)

【名詞述語】

〈断定非過去形〉

前述のとおり、福岡市方言は非過去の場合、コピュラで文を終止させることができないため、名詞述語はコピュラなしの「学生」か、何かしらの終助詞をともなう。一部の終助詞をともなえば、コピュラ「ヤ」が現れる。かつて用いられていた「ジャ」はほぼ完全に消滅し、80代以上の話者でもまず聞かれることはなくなってしまった。

- ・明日は{雨 / 雨やね}(明日は雨だ(ね))

〈連体非過去形〉

共通語と同様、「ノ」を用いて「学生ノ」となる。

- ・先生の家がどこかわからんとばってん。(先生の家がどこかわからないんだけど。)

〈断定過去形・連体過去形〉

コピュラ「ヤ」の過去形「ヤッタ」を用いた「学生ヤッタ」となる。断定と連体の形の区別はない。

- ・昨日の晩飯はもつ鍋やった。(昨日の晩飯はもつ鍋だった。)

〈推量形〉

「学生ヤロー」のようになる。同じ形が、確認要求にも用いられる。

- ・あの赤ちゃんはたぶん男ん子やろーね。(あの赤ちゃんはたぶん男の子だろうね。)

〈中止形〉

共通語と同様に、「学生デ」が使用される。

- ・あの人が先生で、この人が学生。(あの人が学生で、この人が学生。)

〈假定形〉

共通語と同形の「学生ナラ」と、「学生ヤッタラ」が併用されている。

- ・{学生ナラ / 学生ヤッタラ}会費はもらわんでよかつちやなかと?(学生なら会費はもらわなくていいんじゃないの?)

〈否定形〉

伝統的にはカ語尾を用いた「学生ジャナカ」「学生ヤナカ」となるが、現在では「学生ジャナイ」「学生ヤナイ」が聞かれるようになっている。

- ・オーストラリアの首都は{シドニージャナカ / シドニーヤナカ}。(オーストラリアの首都はシドニーじゃない。)

〈なる形〉

共通語と同様、「学生ニナル」である。

- ・将来野球選手になるとが夢たい。(将来野球選手になるのが夢だよ。)

〈丁寧形〉

共通語と同様、「デス」を用いた「学生デス」である。

- ・あっちにおらっしゃーとが社長です。(あちらにいらっしゃるのが社長です。)

〈のだ形〉

伝統的な福岡市方言では、名詞はのだ形をもたない。しかしながら、中年層以下では名詞に直接準体助詞「ト」のついた「学生ト」などが用いられ、のだ形をもつようになっている。これは60代以上の話者ではほとんど聞かれることはない。

- ・大学の先生と？(大学の先生なの？)

参考文献

- 九州方言学会編(1991)『九州方言の基礎的研究(改訂版)』風間書房
- 陣内正敬(1991)「博多方言文末助詞「-ト」の新用法と語彙拡散」『九大言語学研究室報告』12 九州大学文学部言語学研究室
- (1997)「総論」平山輝男編『日本のことばシリーズ40 福岡県のことば』明治書院
- (2006)「方言の年齢差 若者を中心に」『日本語学』25-1 明治書院

- ・坪内佐智世(1995)「地元意識と開放性の

- 共存する都市方言」『言語』24-12 大修館書店
- 坪内佐智世(1995)「福岡市博多方言における「だ」相当助詞に現れるモダリティ」『KLS』15 関西言語学会
- 西日本新聞営業戦略室(2009)『西日本新聞 九州データ・ブック2009』西日本新聞社
- 原田走一郎(2007)「若年層の福岡方言における「-ト」の接続について」『思言 東京外国語大学記述言語学論集』2 東京外国語大学記述言語学研究室
- (2009)「九州方言の繫辞動詞」『日本語文法学会第10回大会発表予稿集』日本語文法学会
- (2014)「福岡市若年層方言における2つのゴトの形態統語的違い」『阪大社会言語学研究ノート』12 大阪大学大学院文学研究科社会言語学研究室
- 平塚雄亮(2012a)「福岡市方言のアスペクトマーカにみられる言語変化」『阪大日本語研究』24 大阪大学大学院文学研究科日本語学講座
- (2012b)「高年層のことばからみえてくるもの 福岡市方言を例に」『国立国語研究所時空間変異研究系合同研究発表会 JLVC2012 予稿集』大学共同利用機関法人国立国語研究所時空間変異研究系
- Hiratsuka, Yusuke. (2013) Fukuoka dialect: an endangered urban dialect in Japan. Abstract at Urban Language Seminar 11 (Hiroshima City Cultural Exchange Hall).
- 森勇太・平塚雄亮・中村光(2012)「若年層の命令形の使用範囲 栗東市方言・福岡市方言・湖西市方言の対照から」『阪大社会言語学研究ノート』10 大阪大学大学院文学研究科社会言語学研究室 (平塚雄亮)